

その人らしく最期を迎えるために
—家族と共に寄り添うケア—

和合愛光園 中津川有希・徳井友紀

はじめに

看取りで後悔の残る出来事があった。

ご利用者

本人・家族の
意向は？

どんな生活を
送りたいかったのか

はじめに

施設での姿

+

自宅での姿

「その人らしい生活」

目的

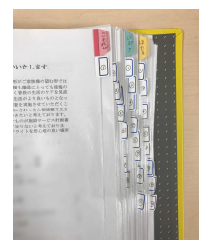
- ①ご利用者の生活歴／大切に生きてきた価値観
生活の意向について
ご家族へアンケート調査を行なう
- ②①で聞いた情報をご利用者の
生活へ取り入れ、変化を見る。

方法①

6月 ご家族へアンケートの実施

生活歴	自宅での過ごし方、こだわり 習慣としてきたもの 好きな食べ物など・・・23項目
意向	看取りの付き添い、 普段知りたい情報、居室環境の希望 その他気になること・・・10項目

7月 家族ファイルの作成



方法②

8月 職員へアンケート

家族アンケートの情報	職員が考える今後のケアや過ごし方
高校時代バレーをしていた。 バレーが好きだった。	風船バレーの実施。 入浴時や介助の際にバレーの話をする。
自宅で園芸をしていた。	ベランダで花を育てる。

8月～9月 情報をもとに余暇の提供



A
90代男性
要介護2



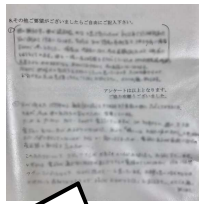
B
90代男性
要介護4



C
80代女性
要介護3

園芸活動⇒24時間シートで記録

結果①



家族アンケート
回収率86%

- ・家族で嬉しいことを共有したい。
- ・部屋で寝ている事が多くなってきたのが気がかり。
- ・本人にあった仕事をさせてほしい。

考察①

面会時に聞かれなかった意見や
要望が多数寄せられた要因



コミュニケーション不足

考察①



職員

×ケアの根拠
×普段の細かい様子

- 挨拶
- 日用物品の依頼
- 体調変化に関する重要事項

- ・居室に置手紙
- ・面会時に細かい情報も伝える



対応に変化が現れた

結果②

日常生活に大きな変化はみられなかった



考察②

- × 蒔いた種の芽が出なかった
- × 実施期間の短さ
- × 記録の漏れ
- × 毎日水やりが実施できていなかった



もし出来ていたら・・・

生活に変化が表れていたかもしれない

- ・ 臥床時間が長い方へ
なじみのある歌を流す
- ・ ケアの最中に思い出話をする
- ・ 家族ファイルを見直す



個別ケアについて考える職員が増えた

まとめ



「その人らしい生活」

今後の課題

- ・ 「その人らしい」生活の実現に向けて
⇒サービス担当者会議・モニタリングで
家族ファイルを資料として活用
- ⇒新規のご利用者へは
情報シートを作成し情報収集

今年度の職場目標

“最期まで「その人らしく」
生活できるように支援をする”

ご清聴ありがとうございました。